

2010年8月5日

1・当協会に寄せられた行方不明者と相談者の続柄関係

表1のとおり、2010年7月度（7/1～7/31）当協会に寄せられた行方不明事案の総数は46件、行方不明者の年齢層では30歳～39歳が一番多く全体の30%を占め、男女比は2.5：1であり、70歳～89歳の高齢者は5人（全体の10%）であった。

年齢層30歳～40歳の男性行方不明者の多い理由には複合的な要因が考えられるが、当協会は以前より次のように分析、推論している。表2-1参照

1) 以前の行方不明者の動機は借金苦、生活苦、結婚問題、夫婦間の問題、不倫問題などが原因と考えられるケースが多く見られた。これらは、新たな生活を行うための『前向きな行方不明（当協会の分類）』だと考えられた。

2) ここ数年は、長期に渡る不景気による失業・就職難などの理由が増え、所謂、ネットカフェ難民の増加とも関連性も考えられる。

3) 失われた10年とロスジェネレーション世代に無目的な失踪が増えている。

また、この世代の特徴として、相談できる友人や知人が少なく、独身者であり、厭世感が強い者やうつ病を患っている者は「死ぬ場所を探す目的での家出」を行い、自傷、自殺に至るケースが増えており、自殺者が10年以上にわたり、3万人を超えている現状と合わせて考えると自殺を食い止める為にも、行方不明者の早期発見が必要である。

なお、20代～40代の家出人に共通する事項は、1・動機「厭世観・人間関係・社会不適応」2・性格「内向的で非社会的・真面目」3・友人・異性関係「極端に少ない」4・同居者の有無「親と同居しているケースが多い」5・職業「無職である」「就職はしているが職場での人間関係に悩んでいる」6・結婚の有無「独身である」などが上げられ、社会に上手く適応できない（適応する意思がない）引きこもりやニートとの関連性も考えられ、「自分の居場所を社会の中に確保できない」「居場所を確保する気がない」などの理由から、逃避型の家出の果てに、その後、自傷、自殺に繋がる事例も多数見受けられる。

これら若年層に増えている新たな類型の行方不明者の問題は、うつ病、ニート、引きこもり、失業、就職難、自殺などの問題と深く関連し、現在の日本が抱える大きな問題（目立たないが）の一つと考えられるが、この問題については別の機会に考察することとする。

次に、表2-2のとおり、65歳以上の高齢者の行方不明者の傾向としては、認知症などが原因となる徘徊、病気を苦にしての失踪などが増加しており、このような、高齢者の行方不明者の大多数も、自傷、自殺に至る事例が多く、わが国の高齢化が進む中で、さらに状況は悪化する可能性が考えられる。

表 1 問い合わせ件数と行方不明者の年齢層、性別、相談者と不明者関係および相談者の居住地域

問い合わせ件数と行方不明者の年齢層、性別、相談者と不明者関係および相談者の居住地域

年齢層	未成年	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～99	100～								合計
	5	5	14	8	7	2	4	1										46
性別	男	女																
	33	13																46
相談者	父	母	兄	姉	妹	弟	娘	息子	親戚	夫	妻	会社	交際相手	友人・知人	孫	祖父母	その他	
	4	11	2	2	5	1	4			5	8		1			1	2	46
不明者	父	母	兄	姉	妹	弟	娘	息子	親戚	夫	妻	会社	交際相手	友人・知人	孫	祖父母	その他	
	2	2	5	1		4	3	12		8	5		1		1		2	46
県別	千葉県		佐賀県		大阪		東京		福島		埼玉		福岡					
	3		1		4		5		1		4		3					
	兵庫		愛知		北海道		神奈川		山梨		茨城		不明					
	2		3		6		2		1		1		1					
	岐阜		静岡		宮城		岡山		島根県		富山		海外					
	2		1		2		1		1		1		1					

表 2-1 30 歳～39 歳の失踪理由

30 歳～39 歳の失踪理由

厭世観・人間関係・社会不 適応(うつ病含む)	10 人
借金問題	2 人
宗教関連	1 人
異性問題	1 人
計	14 人

表 2-2 7 歳～89 歳の失踪理由

70 歳～89 歳の失踪理由

認知症	2 人
不明	3 人
計	14 人

※不明 3 人には認知症はないものの、「他の持病が有り」「突然、前触れ無く、金銭や身分証明書等も待たず」に失踪しており、他所で新たな生活をする為の失踪とは考え難く、何らかの事故、事件に巻き込まれていることも思料される。

さらに、図 1、今回のテーマである行方不明者と相談者の続柄関係について見てみると、捜す側が親族（両親、子供、祖父母、兄弟姉妹）は 30 人（全体の約 65%）を占め、配偶者（夫、妻）13 人（全体の約 28%）であった。

搜索者と行方不明者の身分関係

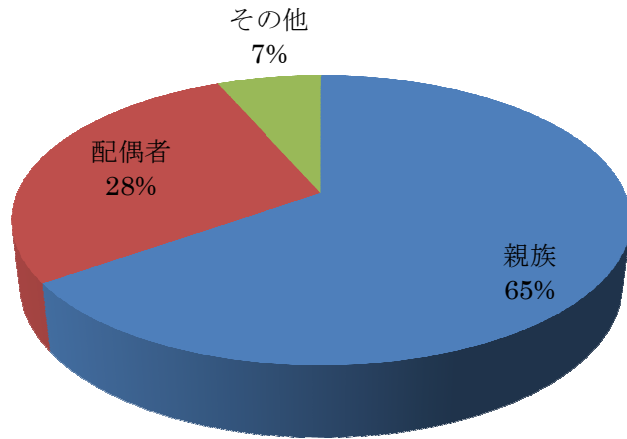


図 1

次に図 2 の相談者親族と行方不明者の具体的な続柄では「母が子供」を捜すケースが一番多く、次に「妹が兄弟姉妹を捜すケース」と続き、「娘が親を捜すケース」「父が子供を捜すケース」が並んでいることが分る。

また、図 3 の配偶者が捜す場合でも、妻が夫を捜すケースの方が多く、親族、配偶者とも女性の方が「探す」という具体的な行動を取る事が多いと推察することが出来る。

具体的な親族の続柄

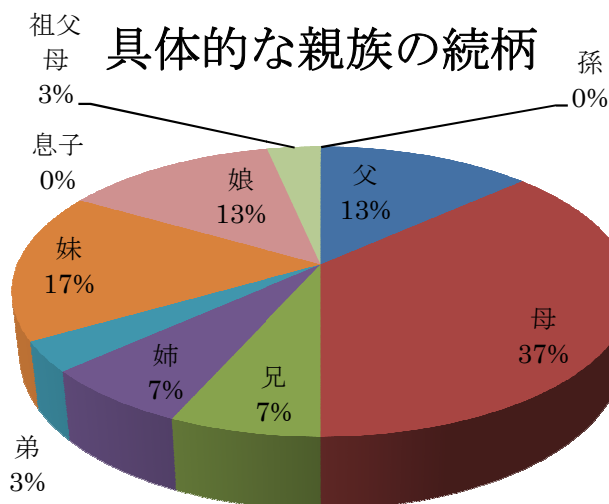


図 2

搜索する夫と妻の割合

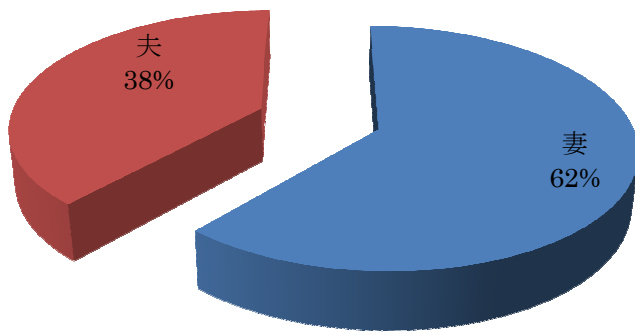


図 3